
長い夏の夜

ユウサク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

長い夏の夜

【Zマーク】

Z4992F

【作者名】

コウサク

【あらすじ】

「少年コウサク物語」でおなじみのコウサクがとうとう父親に？！これは実話に基づき執筆された出産前夜からの物語なのです。

(前書き)

たまにはまじめな作品を一

そつ思いつつ、以前 HUA でのせた口記のよつなものを思い出し改稿して載せてみました。

はじめに

・・・・これは愛息の誕生する前日から誕生までを書いた実話です。
結構ながいので興味のない方にはお勧めしません。

月曜日の夜、店が早く引けて私は22・30過ぎて店をでた。

明日は火曜日公休である。

予定日まであと2週間と少し…
妻のお腹の中の彼はけっどばしたつうねつたりと産まれてくる準備
は
できつつつあるようだ。

名前も決めてある。（雄祐）ゆ、う、す、け

今時じゃないかもしぬないが、自分の名前から一文字とつて決めた。

女の子なら、妻の名からと決めていたので多分、妻も了解していると。
・・・・おもひ。

帰宅してすぐ二つもはソファーベッドに座つてテレビを見てこ
る筈の
妻が立つて迎えてくれた。

なんだかすこし興奮してゐる様子。

「どうしたん？」

•
•
•
•
•
•

「お岳がきた！」

•
•
•
•
•

第三回 おとぎの話

一
や
け
ん
お印がきたと!!

まだよく判らない私。

・ えつ？！？！

「う、産まれると……えつ、でも早くない？予定日までまだ2週間もあるやん！」

「わからんナビ… 納分… 今田じやなくて明日とかかもしれんし… 陣痛がもうすぐ始まるはずやけん…」

「び、病院は？…まだいかんでいいと？だ大丈夫なん？？イタクない？？」

・・・・・落ち着け！…俺！…

とりあえず妻を風呂に入れてから自分も入る。ひとまずはなにもする事がないと、妻が言う。とりあえずふたりともベッドに入つた。

「痛い、イタタ…」

妻のうめき声で田が覚めた・・・・

「始まつたと…陣痛？もつ産まれそつ？」

「うーん・・・・まだ・・・・」

とりあえず間隔は10分になつていた。一応病院に電話してみる。(たしか妻が自分でかけたと思います。定かではありませんが・・・・)

病院の回答は

「5分間隔になつたらきてください。」

との事。

（陣痛きてもいつちやだめなの？痛そなんだけどなあ
などと思いつつ時間が過ぎる。）

時計を何度もみてみると時刻はまだ5時。

まだかかりそうせがん、とりあえず寝とりでいいよ。

苦しむ妻を尻目に欠伸を繰り返す私に妻の優しさ…
お言葉に甘えて少しだけ・・・・・

眠りの中にいる私に誰かが話しかけている。

気がつけば苦しそうな妻の声……

「今何時？」

「わからん！もう病院いくけん用意してーー！」

慌てて時計を見れば時刻は7時半を過ぎ、明るくなっていた。

間隔は5分！！

すぐ支度をして病院へ着いたのは8時半頃。すぐに部屋に案内され着替えをして・・・

すぐ準備室（分娩室のとなりで繋がってる）に入り・・・・先生の診察を受ける。

「まだまだ開いてませんね・・・」

(えーっ・・・かなり痛そうにしてるけど・・・)

とにかくまだ少し余裕がある妻なので、

(今のはかなと)

妻の両親と自分の母に連絡、戻つてもあまり変わりもない様子で、間隔にも変化なし。

病弱ではなくとも丈夫が取り柄らしい詫ではなし妻

年齢の事もあくまでも気付いてはなし

妻の様子をみては何度も何度も看護師さんをよんで

「もの凄く痛そうです！すぐきてください！」

何度もいらっしゃっても

「まだですよー！」

あまりに何度も呼ぶので

「（）主人・・・少し落ち着いて！大丈夫ですから！」などと叱られる始末・・・

まったく・・・本当にこんな時の男は役にたたない。

そんな事を繰り返し、あつといつまに匂すぎになる。

後から病院に来た妊婦さんが、先に分娩室に入つて出産した。

やはり初産の為か、なかなか産道が開かない。

陣痛の間隔も変わらず、その間も妻はかなり苦しみでぜえぜえいつてる。

腰はさすつたり押さえたりと出来る事はそれぐらいで、急に先生に呼ばれた。

先生によばれた私。

深刻な顔をしている先生から言わされたのは要約するとこういつ事だった。

「産道がなかなか開きませんねえ。このままだと明日になるかもし
れませんし、母体の体力も心配ですから・・・陣痛促進剤を使い
ましょう」

(とつあえず早く産めるようこじてあげて…)

促進剤がどういう物かわからぬまま

「じゃあ宜しくお願ひ致します。」

・・・・・しかし、まさかあんな事になるなんてこの時は思
いもしなかった。

看護師さん達が急にあわただしく動き始める…点滴の用意がされ・・

「(主人は外に)…」

(えつなにがはじまるの?)

外に出されて手持無沙汰でソファーにかけるが落ち着かない。しばらく沈黙が続き、しば

「...うん...」
「うーん...」

明らかにわいをまでより苦しみでいる妻の声が聞こえてきた。

「うまかでーっ……お願いにッ！！」

「まだよ！がんばつて！！」

などとやり取りがなされている中、やつと部屋に戻された。

「主人は腰をすこり手をにぎりて声をかけてあけてね！」

勿論それ以外は何も出来ない

(「んなに苦しみで もしかしたら死んじゃ二んじゃ

などと繰起でもなし事にかけ若木でしめハ

それからまたしばらく時間が経過して『そろそろ産道が開いてきた』などとまたまた騒がしくなってきたときに・・・・・

「ご主人は立ち会いされますか？」

唐突すぎて返事もできない。そもそも妻には

出来たらしてね！」

などとお願いはされていたものの・・・どうするか、まったく決めていなかつた。

返事につまつて黙っていると・・・・答える間もなく

卷之三

立ち会いが決定したようである。

分娩室に入ることからも

「まだしきんじゅダメ！」

こんなやりとりを繰り返しながら時刻は15：38陣痛がはじまつて12時間以上経過した頃

その瞬間がやつてきた。

破水して赤いのがぴゅっとでた直後・・・・

ねるんと一気に飛び出しました。すゞく感じたけど……

時間にすると3～5秒ぐらいではないだらうか。

「あ、～つあ、～つ」

大きな声で泣き出した。無事に産まれてくれた安心感と半田シンンドイ思いをした妻がやつと苦しみから解放される安心感・・・・・

色々な気持ちが入り混じって・・・・・
気がつけば、自分でもビックリするくらい大きな声で泣いてた。ぼろぼろに泣いた。

涙が止まらないままデジカメやらビデオ、携帯、もつ撮り続けである。

出産の後処理が終わってから妻が車椅子に乗せられて新生児室にやつてきた。

「がんばったね。おつかれさま」

「うん。」

また涙が溢れてくる。

女性つてす”い。それが素直な感想だった。

（男でヨカッタ。出産なんて…自分には出来ないな…）

本気でそう思つた。

死んでしまつ確實に・・・・・

（でも…もうひとり欲しいな、などと無責任に考へてしまつ自分も
いるのだが・・・）

あとがき・・・・・

この文章は産まれた感動を忘れる前に残しておこうーとホームページに載
せるためにかいたもので、記憶はあいまい、書き上げてから思いだ
した事も多々あり・・・

今回、大幅に改稿させて頂きました。

拙い上に読みにくい文章なのに、読んで頂きまして…誠にありがと

ついでにいきます。

はじめての子供
はじめての出産

そして

親孝行な息子でわざわざ公休に産まれてくれて

今回、勢いもあり

出産に立ち会えた事。神さまにすこーく感謝しています。

10月10日
トキトウカ

お腹を痛めてさらに痛い思いをして出産する母親の気持ちは、男親には多分伝わりきれないとおもいます。

ましてや客観的にみて赤くてシワシワの猿みたいな物体を
(あくまでもいままで他人の赤ちゃんをみた時の自分の感想ですが・
・・)

「あなたの子供よーー愛してあげてねーー」

と・・・急に抱かれた時男はどうしたらいいのか・・・

戸惑う人もいれば愛情が湧かずに苦笑いをするしかなかつたり・・・

まあ全員がそうではないでしょが……

陣痛からずつと一緒にいたおかげで……

痛みを分かち合え

(いやもちろん精神的にですよ)

一緒に苦しみ、安否を気遣いながら出産に立ち向かうまさに産みの苦しみをまじかにみれた事でよりはやく父親の自覚が持てたし、雄祐の顔をみた瞬間から愛してました。

私は世の男性に立ち会いをお勧めします。

コウサク

(後書き)

まだまだユウサクストーリーはあるのですが・・・

暇をみつけで小出しにじょうかと(笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4992f/>

長い夏の夜

2010年10月10日06時54分発行